

1 建物概要			
建物名称	(仮称)ホテル本能寺	BEE	0.8 B- ★★
延床面積	7,710.81 m ²		
用途	旅館、日用品の販売を主たる目的とする店舗、物販店、飲食店、ホテル、	使用CASBEE評価マニユ CASBEE-京都-建築(新築)2018年版	使用CASBEE評価ソフト CASBEE京都-新築2018(v.1.0)
2 重点項目への取組度			
キーワード	取組度		
1 大切に使う			
2 とともに住まう			
3 自然からつくる			
3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア			
1 大切に使う		合計点 22 /41	
■長寿命化		合計点 12 /20	
◇メンテナンスの容易性	スコア 3	◇物理的長寿命	スコア 3
Q2/ 3.3.1 空調配管の更新性	スコア 3	Q2/ 2.2.1 躯体材料の耐用年数	スコア 3
Q2/ 3.3.2 給排水管の更新性	スコア 3	<自由記述>	
Q2/ 3.3.3 電気配線の更新性	スコア 3	耐久性の高いRC構造を採用	
Q2/ 3.3.4 通信配線の更新性	スコア 3	◇社会的長寿命	
Q2/ 3.3.5 設備機器の更新性	スコア 3	Q2/ 1.1.3 パリアフリー計画	スコア 3
(注 上記5項目のスコアの平均が合計点に加算される)		Q2/ 3.1.2 空間の形状・自由さ	スコア 3
<自由記述>		<自由記述> 誰もが使いやすいユニバーサルデザインへの配慮	
設備の更新に配慮し、PS・EPSを共用廊下下面に面して配置		・使い勝手の良い整形の平面計画 ・更新性に配慮したラーメン構造の採用	
■省資源		合計点 10 /20	
LR2/ 2.1 材料使用量の削減	スコア 3		
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	スコア 3		
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	スコア 1		
LR2/ 2.6 部材の再利用可能性向上への取組	スコア 3		
<自由記述>			
・型枠の転用できるように基準階の階高を統一			
◆独自加点項目	合計点 0 /1		
LR2/ 2.1 材料使用量の削減		主要構造部が木造躯体である場合で、「持続可能な森林から産出された木材」を使用しており、うち地域産木材を使用している。	対象外
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		主要構造部に使用した「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	対象外
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	対象外
2 とともに住まう		合計点 21 /42	
■自然とともに住まう		合計点 7 /15	
◇自然を感じられる計画		◇地域環境やコミュニティへの配慮	
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観	スコア 4	Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア 3
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2
Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2	LR3/ 3.3.2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	スコア 3
<自由記述>		<自由記述>	
・南北に広がる空地に向けて客室の開口部を配置		・外壁を見下ろすコンクリート打ち放しとして、周辺の街並みに配慮	
■歴史とともに住まう		合計点 6 /10	
◇歴史性への配慮			
Q2/ 1.2.3 内装計画	スコア 3		
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア 3		
<自由記述>			
・京都の宿として、和の意匠に配慮			
◆独自加点項目		合計点 0 /2	
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観		京都重点項目による加点により、レベル5を超える。	
LR3/ 3.3.2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		格子状ルーバーや簾状スクリーンによりガラス面等の反射光を抑制している、または外壁に反射率の低い自然素材を採用している等の推奨内容の取組みを、1以上実施している。	
3 自然からつくる		合計点 28 /50	
■自然材料の利用		合計点 8 /15	
Q2/ 1.2.3 内装計画	スコア 3		
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア 3		
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材	スコア 2		
<自由記述>			
・内外装材に京都産地域産木材を採用			
■自然環境の利用		合計点 18 /30	
Q1/ 3.1.1 昼光率	スコア 3	LR1/ 2 自然エネルギー利用	スコア 3
Q1/ 3.1.3 昼光利用設備	スコア 3	LR2/ 1.2.1 雨水利用システム	スコア 3
Q1/ 3.2.1 昼光制御	スコア 3		
Q1/ 4.2.2 自然換気性能	スコア 3		
<自由記述>			
・自然エネルギー利用として太陽発電設備を採用			
◆独自加点項目		合計点 2 /5	
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材		「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	
Q1/ 3.1.3 昼光利用設備		デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の昼光利用設備を採用している。	○
Q1/ 3.2.1 昼光制御		デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の昼光利用設備を採用している。	○
LR1/ 3 設備システムの高効率化		評価する取組みのうち、何れかの手法が採用されている。(但し、モニメントの計画を除く)	
		上記の内容に加え、利用量が15MJ/m ² ・年以上となる場合。	
4 低炭素景観の創出に関する評価			
<input checked="" type="checkbox"/> Q1/3.1.3 昼光利用設備	<input type="checkbox"/> Q1/3.2.1 昼光制御	<input type="checkbox"/> Q3/1 生物環境の保全と創出	低炭素景観
<input type="checkbox"/> Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上	<input type="checkbox"/> LR3/2.2 温熱環境悪化の改善	<input type="checkbox"/> LR3/3.3.2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	取組数 1/6項目
5 ライフサイクルCO ₂ とCO ₂ 削減率			
ライフサイクルCO ₂	139.04	kg-CO ₂ /年m ²	ライフサイクル
(ライフサイクルCO ₂ 参照値)	166.85	kg-CO ₂ /年m ²	CO ₂ 削減率 +16.7%
CO ₂ 削減量	-27.81	kg-CO ₂ /年m ²	
6 ウッドマイレージCO ₂ とCO ₂ 削減率			
ウッドマイレージCO ₂		kg-CO ₂	ウッドマイレージ
CO ₂ 削減効果		kg-CO ₂	CO ₂ 削減率 0%

「ウッドマイレージ計算書」から転記 : 自由記述入力欄